



北浦湖畔に浮かぶ 帆引き船、子ども達の 未来をのせて

認定こども園 大野ひかり保育園



建築は「健築」

認定こども園・大野ひかり保育園
園長 中西良健

保育園から認定こども園とする
ことになり、新園舎増築の計画が
持ち上がりました。丁度その時期
に吉田先生のパンフレットが手元
に入り、拝見拝読したところ、こ
の方面であれば信頼出来る、きっと
満足の出来る設計をしていただけ
ると確信し、実現化に向けて出発
進行しました。当園は北浦に面し、
霊峰筑波山を望み、夕陽の大変美
しい景勝の地にあります。園舎の
外観は、この北浦に浮かぶきれ
いな白い帆の帆引き船をイメージし
て設計していただきました。保育
室には樹齢百五十年の木曾檜の二
本の大黒柱は、大人の両手一杯ま
わしても入る事ができない太さで
す。これは帆舟のmastです。二
階建の部分には和風調の真っ白い
障子の建具、これを帆船の帆に見
立て、床は地場産木材の桧張り、
これは帆船の甲板を表わします。
腰壁には地場産木材の八溝杉、そ
して壁には珪藻土、すべてが木の
造作を念頭に置き、子供の健康を
第一にと考えていただいて、最善
の設計をしていただき感謝してお
る所存です。結びになりますが、
表題の通り「建築は健築」なんだ
と再度確認している所です。

合掌



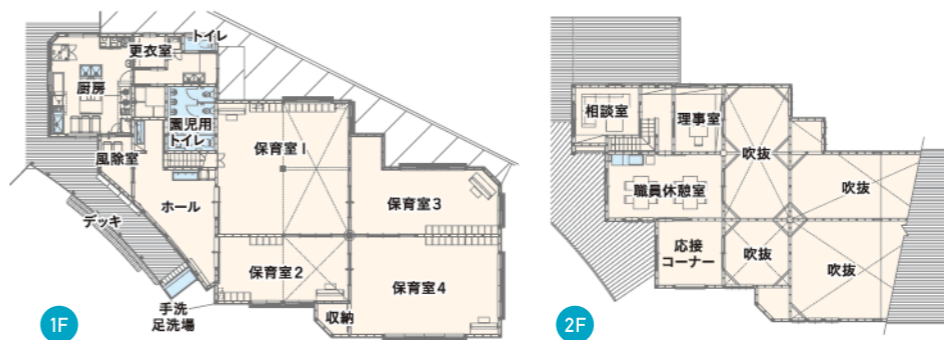
保育室1 / 大黒柱に見守られて毎日を過ごす。保育室2 / ロッカーもすべて木製。保育室3 / 大黒柱を中心として建具で間仕切れた保育室。建具を外せば広々と一室になる。保育室4 / 広い掃き出し窓からは園庭を見渡せる



上 / 2階から保育室を眺める。下 / メインシンボルの丸窓からは北浦に沈む夕日が見える



左 / トイレブースも木製でシンプルで爽やか。
中 / ホールには程よい光がとどく。右 / 緩いカーブをつけたウッドデッキ



認定こども園 大野ひかり保育園

工事名称 / 大野ひかり保育園増築工事(別棟)
事業主 / 社会福祉法人 慈眼福祉会
所在地 / 茨城県鹿嶋市大字中1593他
用途地域 / 市街化調整区域
建築面積 / 281.58㎡(渡り廊下含む)全体893.43㎡
延床面積 / 307.37㎡(増築部分)全体912.62㎡
耐火建築物 / その他
構造・用途 / 木造2階建て・保育所
竣工 / 平成27年4月1日

認定こども園・大野ひかり保育園

北浦湖畔にうかぶ 帆引き船、子ども達の 未来をのせて

風光明媚な環境と共に、子供たちが
のびのびと生活し、感性豊かに成長できることを
大きなテーマとして設計しました。



どんな時も中心となる大黒柱



本物の木のデッキは足触りも格別



木の香りの中で食事もおいしく



日差しがたっぷり入る保育室

認定こども園大野ひかり保育園は、霞ヶ浦の北浦のほとりにあります。保育所から認定こども園への変更や園児の増員にともない、園舎の増築の設計のご依頼をうけました。現地向うと北浦を望むのどかな田園風景の中に、広々とした園庭と大きい屋根が特徴の既存園舎が迎えてくれました。この広い園庭では秋に大規模な運動会や、園名物の和太鼓の演奏が披露され、多くの人が訪れるということでした。

既存建物との融合と帆引舟をイメージしたデザイン

先生方と打ち合わせを重ねていき、設計の方向性が定まりました。既存の園舎をいかすこと、運動会が従来通り行えるよう、グラウンドの広さを確保すること。新園舎のグラウンド側には大きな掃出し窓を設けて、室内からも観覧ができるようにすることなどです。

既存園舎と調和のとれたデザインと、また既存の保育室に影が落ちないよう、新しい園舎の配置や形状を検討を重ねました。園長先生のアイデアと融合し、帆引き船のイメージが形となって表れてきました。



吉田建築計画事務所
所長 吉田良一
一級建築士

地域産木材と自然素材による園舎づくり

園長先生には私の園舎に対する姿勢に共感していただき、構造は迷わず木造（軸組工法）とし、構造材および仕上げ材ともに茨城県産木材にこだわりました。

一階は保育室ゾーンと厨房部分にわかれ、二階は先生方の休憩室や理事室など管理ゾーンとしました。既存園舎とはウッドデッキで結び、裸足で行き来ができます。四室ある保育室は大黒柱を中心として建具で間仕切られています。建具を外せば大空間としても使うことができます。二階部分の障子をあけると、南側からのぼる勾配天井でつながれた保育室を見渡すことができます。子供たちの様子がわかります。子供たちの手で触れる部分は自然素材を使用しました。二本の大黒柱は無垢の木曽檜、床も無垢の檜のフローリングです。天井は珪藻土、壁には八溝杉の腰壁と珪藻土を用いました。

木の香りとともに、こども園で過ごした日々をふと懐かしく思い出すような、子供たちの五感による記憶がこれからの人生の手助けとなることを願っています。

外壁を雁行させることで、建物全体にリズム感を出すと共に、既存園舎への影を最小限に抑えている。白い外壁は舟の帆をイメージ



船のマストに見立てた檜の大黒柱が、吹抜けの高い天井まで伸び、園舎のシンボリックな存在となっている。室内は八溝杉と珪藻土の自然素材で造られている